

「終わりよければ」いせの会 会報43

平成24年2月14日版

電話 05966・63・52266  
ファクス 05966・63・52366

2月8日(水) 例会の記録

縁(えにし)の家 19時～21時

出席者(9名)

男性3名、女性6名の出席でした。今回は、今後のいせの会の活動の方向を率直に話し合いました。

胃瘦(いろう)をめぐるシンポ

- 2008年に一度行っているが、嚥下障害のなりたち・嚥下食など食べる工夫・胃瘦の実際など全体的な問題提起だった。
- 胃瘦がヘルパーに管理が広げられるなど、実施している人は増え続けている。胃瘦を支えている家族の疲労も増していると思われる。
- 短い入院の間に、胃瘦を勧められ、実施しないなら退院という流れもあり、胃瘦決定への悩みも増している。
- 再度、胃瘦について、病院医師を呼び、市民との率直な意見交換を行うべきではないだろうか。集中論議を。

急性期病院の実際を知る機会を

- 新しい日赤の入院を経験すると、市民が今まで持ってきた入院の感覚と大きなギャップがあると思う。
- 市民の求める医療は、ホテルのフルコースの食事のようなイメージ。一方で提供される医療(DPC)は、単品料理で客の回転の速い料理店のイメージ。この先、急性期病院は急性期病院として利用するしかないが、入口と出口で戸惑わないようにする心遣いが必要。
- 普段の相談相手は、誰をどのように頼るか、そのイメージが必要。

市立伊勢総合病院について

- 建て替えを計画しているようだが、現在の単なる建て替えではなく、地域に貢献する新しい医療内容が必要
- 立派な箱モノを作るのは重荷になる
- 日赤の縮小版のような急性期病院は必要ないと思う(相互の役割分担を)
- むしろ日赤とは対極的な性格の病院を介護や在宅医療と密接に連携できる機能重視(たとえば休日夜間の第一次診療所を併設し、バックアップする)
- 医師・職員は、地域医療に視野の広いスタッフを全国から公募する気持ちで企画は業者任せではなく、市民の意見を掘り起こし進行するプロジェクトで

次回 3月14日(水) 19～20時半  
場所 縁(えにし)の家  
3月での新たな区切りを考える

その他の検討項目です

- パネル展示を計画したい  
3月20日のアリーナでのイベントに参加はしないが、パネル展示を出す
- 病院等の待合スペースを借用する形で、上記の「いせの医療や介護、緩和ケアを考える」展示を開きたい
- 今ある資料を整理、発行を考える
- 2月末締切の「日本ホスピス・在宅ケア研究会」の地域活動援助を申請する
- 「ふたたび胃瘦を考える」シンポを開催するための、準備作業を始める
- この会報(ファクス)が不要の方は、お知らせください。

「終わりよければ」いせの会

〒516-0805 伊勢市御園町高向927 縁えにしの家

Tel 0596-63-5226 Fax 0596-63-5236

mail [homecare@amigo2.ne.jp](mailto:homecare@amigo2.ne.jp)

ホームページ <http://amigo2.ne.jp/~homecare/>